月桃（げっとう）通信 No19　2020 年 2 月 22 日

「勝つまで諦めない」座り込み 2055 日

石原艶子

兄弟たち、あなたがたは自由を得るために召し出されたのです。ただこの自由を肉に罪を犯させる機会とせずに愛によって互に仕えなさい。（新約聖書　ガラテヤ書）

国連、世界人権宣言第 1 条　すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である。人間は理性と良心とを授けられており、互に同胞の精神をもって行動しなければならない。

★表現の自由―――人間が人間らしく生きるために自由ほど尊くかけがえのないものはありません。自由は神が人間に与えた特権です。神は創造の始から、人間を愛するが故に、人間自らが自由意志をもって神と出会い、神と対話する存在になることを望まれたのです。然し人間は神と対話する善なる道を選ばず、自ら互に自由を奪い合い、殺し合い戦争をする者となってしまい、不自由の中でもだえ苦しんでいます。辺野古キャンプシュワブゲート前に座り込みを始めて 2055 日（2 月 20 日現在）私たちのリーダーはこの闘いの始めから、「私たちは憲法で保障された表現の自由に基いてこの行動をしているのです」と、私たちの行動の正しさを声高らかに宣言してきました。この宣言の前では私たちを弾圧し排除する防衛省、警察機動隊こそが私たちの自由を侵害する違法行為をしていることになります。辺野古ゲート前や土砂搬出港の現場では毎日国家権力が私たちの表現の自由を暴力をもって侵害し続けています。そしてこのことは沖縄に限らず、安倍一強政治の下で日本中にまかり通り、福島の原発をはじめ、芸術、報道、言論の世界をも蝕み、私たちの社会を自由にものが言えない一色の世界へと染め上げつつあります。

憲法 21 条　集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。

憲法 13 条　すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

今やこの憲法が壊されているその現場が、ここ沖縄の辺野古ゲート前であり、私たちは「未来の子供たちのために基地は要らない」「宝の海を殺すな」「NO WAR」と叫び続けています。2020 年の今、真正面から闘っている現場がここにあることを日本中の人に知ってほしい、そしてこの現場に来て共に闘って、自分事にしてほしいと私は心から願っています。

★勝つまで諦めない、は私達のスローガンです。然し、力強い言葉の背後から不安の風が心の片すみに吹いてきます。毎日ゲート前から三回も入る 200 台余のコンクリートミキサー車にダンプ、安和・塩川港からは 1 日 1000 台以上のダンプから赤土混じりの土砂が海上搬出され、辺野古の海を埋め立て続けています。特に今年に入ってから防衛省は焦りをあらわにして強行姿勢に転じています。1%と言われていた埋め立て面積も 2.5%と確実に急ピッチ、進行しています。基地内では地下トンネルも完成に近づき、やがて山からベルトコンベアーでの土砂投入も着々と準備されているようです。海底 90 メートルの軟弱地盤もデータを改ざんして再調査の必要はないとし、有識者と言われる御用学者の言いなり。国の港湾基準

を満たさなくても問題外、何でもあり、メチャクチャ、やってしまえ!!民意など関係ないと、一切おかまいなし、国土の0.6%にすぎない沖縄島を差別し、いじめて、あの地上戦から７５年の今現在、日米安保を盾に軍事基地強化に突き進んでいる安倍政権を許すことは出来ません。このような厳しい現実と向き合い闘い続けている私たちにガンジーの言葉が語りかけてくれます。**『決して負けない、決して逃げない、非暴力とは、わたしたちに対してふるわれる理不尽な暴力に、力なく屈することではない、非暴力はもっとダイナミックなものなのだ。それは政治や社会、そして暮らしの中でわたしたちに向けられるさまざまな刃に対し逃げることなく、全身全霊をもって抵抗し続けることである。**』敗けているように見えて勝っているのは私たち沖縄の民なのです。ゲート前で歴史を作っている私たち一人一人の存在は何と尊く輝いていることでしょう。神が与えた自由を今ここで生きていることを喜び誇りに思います。人類愛に生き、闇の力に殺されていったガンジー、キング牧師、中村哲さんをはじめとする多くの魂たちとつながって私たちはここに居るのだと思います。殺されても殺されない自由な平和を愛する民こそが真の勝者であり地を嗣ぐ者たちだと確信しています。「闇は光に勝てない、うそは真に勝てない、真実は沈まない、私たち諦めない」と歌う時、**勝つまで諦めない**とはこのことだと、心に喜びと勇気が湧き上ってくるのです。

★反対闘争に加わらない辺野古住民　―――辺野古の集落を歩いていると〝ドカーン〟と山の裏の方から凄い爆音が響きます。廃弾処理の爆音でしょうか、これが平和と言えるでしょうか。最も被害を受けるのは地元住民、その上命の糧を与えてくれた宝の海まで埋め立てられても立ち上らないのは何故でしょうか。国家には逆らえないと諦め、お金を得ようとの条件闘争は国に魂を売る事になり、始めから敗北しています。**「あなたがたは神と富とに仕えることはできない。」**あの地獄の戦争体験をした民だからこそ、一緒に絶対反対に立ち上ってほしいと私は切に切に願わずにはおれません。このような中でも辺野古住民の少数の友人達がこのテントを守り支えて下さっている事、そして島袋文子さんが車イスで座り込みに参加し続けて下さっている事は何と感謝な事でしょう。政府との交渉の中で、戸別補償金を求め続けてきた住民達は、支給出来ないとの国の解答の後、賛成から反対に変った人もいると聞き、お金で動く心を淋しく思いました。軍事基地には必ず闇の金がつきまとっています。国は闇の金で人間の魂を買うのです。

★沖縄の水が危ない　―――わたしたちの水道水には身体に悪い有機フッ素化合物（ＰＦＡＳ）という米軍基地由来の有毒な化学物質が入っていることが分かりました。私たちは安心して飲める水を求めて署名活動や学習会をして、汚染水から命を守る県民集会も計画しています。有機フッ素化合物は現在数千種ほどありＰＦＯＳ、ＰＦＯＡなどの毒性が指摘されています。北谷浄水場の水道水からはこのＰＦＡＳが多く含まれていることが分かってきました。軍事基地から出てくることは私たちの命をおびやかす悪いことばかりです。私たちは嘉手納基地と全基地撤去を求めて闘い続けていきます。

★オリンピックいらない　―――復興五輪、とんでもない、嘘でぬりかためられた五輪マークの空しさ、商業主義、メダル獲得競争、ナショナリズムの高揚、政治利用、平和の祭典は消え失せました。一度中止にして、原点に立ち帰るべきではないでしょうか。

★２月１１日、偽りの建国の日　〝米軍機の爆音に耳ふさぎ仰ぐ沖縄の空〟　８月１５日の無条件降伏の日、非武装平和主義の憲法の下に世界平和の使命に生きてこそ建国はあるのだと思います。安倍独裁政治の下、もの言わぬ忖度の民の先に見えるのは亡国です。今こそ神に与えられた自由を愛によって働かせて平和を作っていきましょう。